平成 23 年 8 月 5 日

各　　位

上場会社名　　ｓａｎｔｅｃ株式会社
代表者　　代表取締役社長　鄭　台 鎬
（コード番号：　６７７７）
問合せ先責任者　業務部管理グループ長　水島 大介

総務省「ＰＲＥＤＩＣＴ事業」に係る委託対象事業への採択決定に関するお知らせ

このたび、総務省の実施する「ＩＣＴグリーンイノベーション推進事業（「ＰＲＥＤＩＣＴ」）」の平成 23 年度研究課題公募におきまして、当社が提案・応募しておりました、「フレキシブル・グリッド型光ノードシステムの研究開発」が採択されることが決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

１．制度の目的と公募の対象

ＰＲＥＤＩＣＴは、CO2 排出削減、省エネルギー化に貢献する情報通信技術（ＩＣＴ）分野のイノベーションを創出し、研究開発を促進していくことを目的とした競争的資金制度です。

２．採択された研究課題の概要

日本が世界をリードする液晶ディスプレイ技術の一つであるＬＣＯＳ（注 1）プロセッサとテレコム品質（注 2）の国産光伝送技術を融合することで、省エネルギー性能に優れた次世代ＲＯＡＤＭ装置（注 3）の実現を目指します。

今日の光ネットワーク網には波長多重通信技術が利用されていますが、高速大容量通信時代を迎えて、光ネットワーク網の交差点に相当する部分において、光信号処理機能を備えたＲＯＡＤＭ装置の導入が進められています。

現在主流となっているＲＯＡＤＭには方式が複数ありますが、いずれも電力消費量も発熱量も大きいことが課題として挙げられています。

採択された事業では、テレコム品質での実用に堪える性能を保持しながら、消費電力を抑える次世代ＲＯＡＤＭ装置「フレキシブル・グリッド型光ノードシステム」を実現する

技術の確立を目標としています。

本事業の採用する方式では、装置そのものの消費電力量が小さいだけでなく、一台で多くの信号処理が可能となるため、設置数を大きく削減できる効果が期待されています。

本研究は、当社が研究代表者となり、名古屋大学（アーキテクチャ研究)、DIC 株式会社（新型液晶材料の開発)、株式会社住田光学ガラス（レンズ材料の開発)、という研究体制で実施いたします。

注1 ＬＣＯＳ

Liquid Crystal On Silicon の略。シリコン基板上に反射型液晶を形成する技術。

注2 ＲＯＡＤＭ

Reconfigurable Optical Add Drop Multiplexer。リング状の光通信ネットワークで用いられる、光信号の経路判定の技術。波長多重光信号から任意の波長の光信号を取り出し、合流させることを可能とします。光信号を電気信号に変換しないため、超高速の伝送速度を保ったまま、柔軟な経路管理を実現します。

注3 テレコム品質

インターネット等のベストエフォート型通信とは異なり、固定電話網や携帯電話網では高い品質・安全性・安定性が要求されます。これらのサービスの要求に堪える品質を指します。

３． 委託契約の期間

実施期間　　平成 23 年 8 月下旬から平成 26 年 3 月 31 日まで

４． 今後の見通しと当社業績に与える影響

本採択にかかる正式契約はまだなされておりません。また、本採択に関する研究成果が当社業績に与える影響は現時点では不明であります。お知らせするべき事情が生じた場合には、速やかに開示いたします。

５． ご参考

総務省による発表内容は、以下をご覧ください。

平成 23 年度「ICT グリーンイノベーション推進事業（PREDICT)」の交付決定について

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/predict/

以上